



# 今後の電子図書館の動向

**附属図書館研究開発室 情報科学研究科**

**今井 正和**

# 電子図書館とは

- 図書館が保有するサービスを電子的に提供する
- 目録 (二次情報) の電子化とネットワークによる供給
- 一次情報の電子化とネットワークによる供給
- ネットワークを経由したその他のサービスの提供

さて、できあがったものは？

- インターネット上で情報を発信するサーバ
- Webサーバとして多数存在する
- 電子図書館とネットワーク上の情報サーバには違いがあるのか？

少なくなってきている

ない

# その未来は？

- **電子図書館」と情報サーバ」の境界がなくなっ**  
**てゆく**
  - 情報発信基地
  - 情報の分類法
  - 蓄積 (公開)すべき情報の作成方法
  - 分散した情報の統合
  - いわゆる灰色文献の取り扱い, 価値
  - マルチメディア
    - 画像
    - 音声
    - 動画像

# 情報発信基地としてのサーバ

- 大学も情報公開が求められている
- 学位論文には公開の義務がある
- 電子化の対象を出版されている書籍, 雑誌から学内で生産された情報に広げるだけでいい
  - 学士論文, 修士論文, 博士論文
  - テクニカルレポート, 学内紀要など
  - 研究成果をまとめた画像, 音声, ビデオなど

# 受け身から働きかけへ

- 情報を集めて貯えることから、情報を製作し送り出す
- これまでは利用者からの利用を待つ
- サーバ側から利用者に情報を送る
  - 新着通知
  - サーバの内容が変化した時

# 情報の分類

- **情報の分類方法が激変する？**
  - **これまでの図書館での情報分類**
    - 調査研究をするには粗すぎる
    - 基礎的な勉強をするには
  - **ネットワーク上での情報分類 (例えばYahoo)**
    - 細かい部分と粗い部分がある
  - **計算機は情報分類の基準を動的に変更できる**

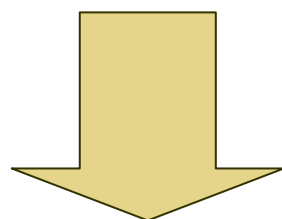
# 情報の分類

- サーバが蓄積している情報により,分類の粒度が変化
  - 特定の分野に特化していれば細かい方がよい
  - 幅広い情報があれば粗い方がよい
- 利用者の要求に基づき分類を行う
- 検索の問題に帰着？



# 蓄積すべき情報の作成方法

- これまでは紙のスキャン
- 出版社が電子的なデータの供給を開始
- スキャンから電子データへの移行
- 出版社自らWebにより供給 (電子ジャーナル)



- 入力作業の負荷軽減

# 分散した情報の統合

- 複数の情報サーバをひとつに見せる技術

- 横断検索？

- 単純な横断検索は自分にあったものを求める利用者の要求を満たさない

- より高度な統合法

- どんな情報が格納されているのか
- 情報アクセスにコストはどれくらいかかるのか
- などなど

# 灰色文献の取り扱い

- (特に)先端科学技術の分野では雑誌論文、国際会議録が重要な役割を果たす
- 先端科学技術分野では図書的重要性の低下
  - 教科書,参考書にはなる
- 情報の管理単位の変化
  - これまでは,冊子ごとの管理
  - これからは論文ごとの管理

# マルチメディア

- **語学ビデオ**
  - 学習者のレベルに応じて対話的に内容が変化する
- **研究の場面では画像 , 音声 , ビデオ情報が重要**
- **特に , 発信することが重要**

# その未来は？

- 「よそでXXXをやっているから」という理由で同じサービスをする時代ではない
- 自らの利用者の要求に応じたサービスを具体化する必要がある
- 新しいサービス , 産業の可能性
  - 「電子図書館」を構築して大学などに提供する
- 外部の情報の蓄積場所から内部の情報発信拠点への移行

# 我々の取り組み

## ● 情報の発信

- 単なる情報の発信ではなく、情報の流通を考慮
- メタデータを用いる
  - 考古学写真データベース
  - 学位論文データベース